

どこに行く全日本大会

若者の登竜門・インカレ

インカレ・全日本大会とも単独イベントでは参加者数・運営者数ともに減少傾向となっており競技品質を維持したままでは運営面・資金面で単独開催が難しくなっている。

大会を統合して人的リソース・資金リソースを共有化し競技品質を低下させることなくそれぞれの選手権大会を提供するのが最善ではないかと考えるようになってきた。

背景)

インカレミドルリレー2007(奈良インカレ)において今後のインカレの方向性を考える上での方向性と課題を見つけた。

方向性)

春インカレの継続開催は日本学連の最大価値である。3月に卒業する学生たちが学生最後の大きな目標として掲げているのがこの春インカレである。

学生人口の減少とともに学生競技者数も減少してきており現在は従来のインカレ品質を保ったまま春インカレを単独開催できる最低競技者数になっている。

しかしイベントとしての盛り上がりは衰えることなく健在だ。この春インカレの盛り上がりは、学生がオリエンテーリング活動を行う上で、目標となる競技会として重要である。

少子高齢化の社会の中でオリエンテーリング人口も減少しているがこの競技を支える人材として、学生競技者は貴重である。学連としてこの春インカレの盛り上がりを維持し続け学生の目標たるべき競技会でありつづけたい。

問題点)

学生は大いに盛り上がった奈良インカレだったが、周囲の状況は厳しくなっていた。

- ・運営者が不足気味だった。
- ・学生の活躍を見せるはずの一般参加者(観客)が少ない。これは競技会の収入にも影響を及ぼす。

その原因のひとつとなったのは奈良インカレの2週間後に開催された大阪全日本大会である。

競技者・運営者が限られたなかで2つのビッグ大会が連続して開催された

ことは、この地域での参加者や運営のリソースをお互いに奪い合うことになってしまった。

このような状況で各種リソースを食いつく状況であればインカレ・全日本大会のお互いの競技会が破綻しかねない。どちらの競技会も年々参加者数を減らし続けており、今後も単独開催について決して楽観的な状況ではない。

2008年インカレと全日本大会

そんな中、2008年度は神奈川全日本大会側からコラボ提案があり2009年3月開催の春インカレと全日本大会は多日間大会形式で行われることになった。

このコラボの提案は運営リソース・地図調査リソースの共有化・最大化が目的である。運営リソースのない全日本大会がインカレにヘルプを求めてきたということが出来るだろう。

2008年度は春分の日周辺に連休があったため、このようなコラボレーションが実現した。地域的にも参加者数が期待できる。今回はきっと成功を収めるだろう。

だが毎年このように都合のよい日程は得られない。(少なくとも2011年度は連休にならない) またこの時期は学生の卒業式にあたり、学生オリエンティアを取り込むには難しい日程となっている。このコラボは一時的なもので長く続かないだろうと私は見ている。

全日本大会はなぜ3月か

3月に春インカレを行う意味は大いにあるが、今となっては3月に全日本大会を行う意味は薄い。

特に3月末は社会人の繁忙期にあり、全日本大会開催に伴う運営者の苦労は他の期間より大きくなっている。

他の時期に全日本大会を移動させることも視野に入れて考える時期に来ているだろう。

日本オリエンテーリング協会の前身、日本オリエンテーリング委員会は政府系組織として発足された。日本の会計年度は3月末で閉じる。このことから全日本大会が3月に開催されるようになったのではないかと推察する。今の民間企業の感覚からすれば、いわば内

向きの理由のように思える。

全日本大会が始まった頃、全日本大会は年度内に開催される各大会の総仕上げの大会でもあった。その仕組みは概ね以下の通りだった。

まずは都道府県協会のレベルで公認大会を開催する。全国をいくつかのブロックにわけ、その内でブロック大会を開催する。その上位大会として日本オリエンテーリング委員会主催の東日本大会、西日本大会を秋に実施する。これらの公認大会で実績のある者が3月の全日本大会に参加できる。

だが、競技者数の減少とともに、全日本大会では選手権クラス参加者以外の制限が撤廃された。こうなると選手権クラス以外では選考会としての公認大会の意味合いがなくなった。多くの地区ではブロック大会は早々に消滅し、今でも開催されているのは中日東海ブロック大会だけである。(これはこれで素晴らしい)。数年前からJOA主催の東日本大会、西日本大会も廃止された。

年度内の各予選大会が消滅している現在にあって、全日本大会だけが昔のまま3月に開催されているのだ。

インカレロングと全日本

全日本大会が学生選手権と組むとしたら、秋に開催されているインカレロングが適しているように思える。同じロングディスタンスを目指す競技だからである。

ただひとつ問題がある。日本選手権と学生選手権では求められるコース距離が違う。お互いに理想を追えば同じコースを共有することができない。

そうすると、インカレ出場選手は全日本大会のコースを走ることができないという状況になる。

しかしここはお互いが多少の妥協をしてゆく場面であると個人的には思っている。

オリエンテーリングが成長期にあり、資金的、人的リソースが潤沢なときは、このような心配は無用であった。

しかし、今は停滞期から減少期に入っている。必要なリストラは行い、身の丈にあった運営で継続することが重要だろう。

(木村佳司)